



1 琵琶湖疏水記念館

琵琶湖疏水竣工100周年を記念して1989年にオープン。琵琶湖疏水が京都の近代化に果たした役割や水道事業の歩みを紹介する資料のほか、第1期蹴上発電所で使用されたペルトン式水車やスタンレー式発電機なども展示されています。

- 開館時間：午前9時～午後5時まで
※入館時間は午後4時30分まで
- 休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日・休日の場合は翌平日)
年末年始(12月29日～1月3日)
- 入館料：無料



2 水路閣

疏水分線に水を通すためにつくられた、南禅寺境内を横断するアーチ型の水道橋(全長93.2m、幅4m、高さ約9m)。分線の高さを維持し、かつ、後背地にある亀山天皇の分骨所を避けるため、このような形になりました。

3 取水口

琵琶湖疏水から発電に使用する水を取り込む設備。取水口のゲート付近には歩道があり、そこから蹴上発電所へと伸びる水圧鉄管を望むことができます。また歩道は、水路閣へと続く疏水分線沿いにある管理用通路に続いています。

疏水事業の足跡をたどる 蹴上発電所 周辺散策マップ

モデルコース

蹴上発電所



琵琶湖疏水記念館



水路閣



取水口
田邊朔郎銅像



蹴上インクライン
ねじりまんぼ



6 ねじりまんぼ

蹴上インクラインを横断するための歩行者用トンネル。上からの大きな負荷に耐えられるよう、らせん状にレンガが積まれています。東西の出入口には、琵琶湖疏水計画を実現させた北垣国道第3代京都府知事が揮毫した「雄観奇想(ゆうかんきそう)」、「陽気発所(ようきはつするところ)」の扁額があります。



5 蹴上インクライン

蹴上船溜から南禅寺船溜まで延長約582m、高低差約36mの落差を克服し、舟を通航させるために敷設された傾斜鉄道。ワイヤーロープにつないだ台車を巻上機(ウインチ)で上下させるしくみで、動力には蹴上発電所で発電した電気が用いられました。



4 田邊朔郎銅像

明治から昭和にかけて活躍した土木技術者「田邊朔郎」を顕彰する銅像です。田邊は、工部大学校(現:東京大学工学部)卒業と同時に、第1琵琶湖疏水建設工事を指揮。のちに京都帝国大学教授となるなど、京都の近代化に多大な影響を与えました。

